

上分大日 如来坐像とは

高知県須崎市上分
笹野地区にある大日堂に鎮座している木
造大日如来坐像のことであり、ヒノキ材の
寄木造、漆塗りで像の高さ49.3cm。両
手は曲げて智拳印を結び、頭部は高い宝
髻を結い、髪は細く緻密に刻んでいる。

顔はふっくらとし、肉付きは若々しく、左肩から右脇
腹にかけて条帛をまとっている。

像底銘によると、享保20(1753)年に京都の大仏師・
大谷内記が修理していることが分かる。

昭和61年3月に須崎市指定文化財となる以前から、
同じ境内にある大師堂と共に、地元笹野地区の人々
から、長い間非常に大切にされてきた。また本像が鎌
倉時代初期から中期の運慶・湛慶の流れを汲む本格
的な初期慶派仏師の作であることが確認され、平成
21年3月17日に高知県保護有形文化財の指定とされた。

地元では「上分大日堂、大日如来像修復保存実行委
員会」を結成し、修復費等の工面のため、募金活動を
展開したところ、多額の御寄付が寄せられ、平成22年
1月、大日堂が新築され、同年2月27日に御披露目と
なった。



↑新大日堂及び大師堂
(撮影2010年8月13日)
←旧大日堂及び大師堂
(撮影2009年10月15日)



上分大日如来坐像

本木像の構造

頭部は前後に割り放ち、後頭部
は耳後方により2材、さらに後頭部
の小部材1材を矧ぎ付ける。

玉眼は水晶製で、裏側で和紙と
綿をあて、木製の抑え板を竹釘に
より4箇所で留める(現状では2本
残存)。宝髻別材。

頭部は頸部三道下で割り放ち、体幹部は基本的に前後2
材矧ぎとし、各所に小補材を寄せる。

両肩には小補材を挟み、腕先、両肘先、両手首先に別材
を寄せる。

膝前は腹部の曲線にそって横1材、また両腰裏部に三角
の部材を寄せる。

像底部は前後面根幹材により棚上にせり出させ、上げ底
式の構造をとる(接地面より4.5cm程度)。

また、体部前面材は2本柄を立て像底部に組み込む。像
内は頭体部ともに内刳を施す。



悠久の時の中で、
今も雄大に鎮座する。



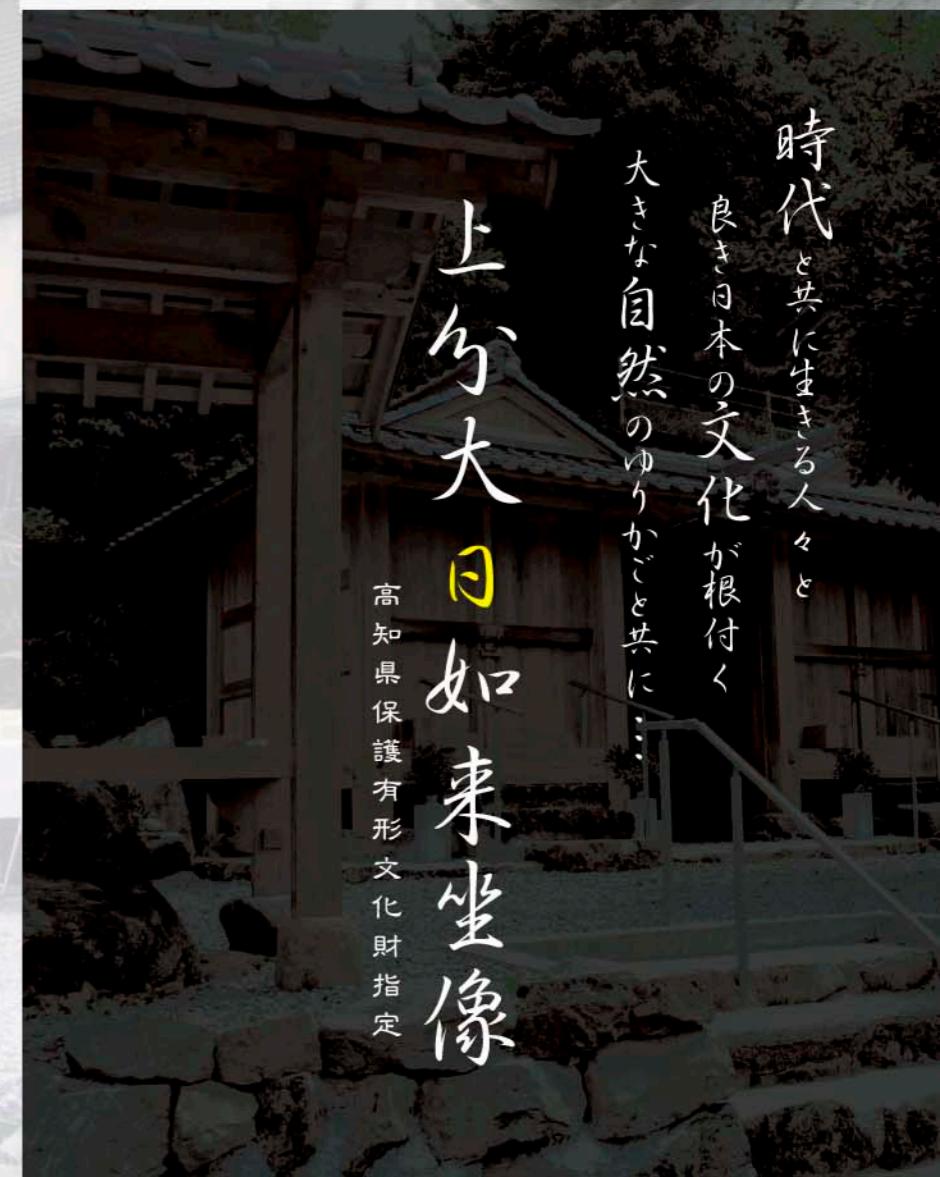
笹野大日堂・大師堂の略史



『土佐州郡志』高岡郡
西分上分村の条に、「聴
松院 笹野今無寺本尊大
日如来像 髮寓蓮華寺堂
中」とあり、この大日如
来像が本像にあたると
考えられる。

また聴松院は、『南路志』 高岡郡上郷村(今日上分)
条によると、「聴松院 根元篠野二有。 今本尊蓮花寺
境内ニ有 退転、本尊ノミ残 本尊 当寺ハ津野十一
代之領主山内弥次郎元勝菩提寺也」とみえ、山内元勝
ゆかりの寺であったことが知られる。

また、本像が聴松院より移されたと伝えられる蓮花寺
は、もと新莊川流域の笹野よりやや南に位置する伊才
野にあったが、明治4年(1871)廃寺となった。



特徴的な技法 寄木造り

木彫仏の造仏技法の一種。頭部・胴体部の基本部を二材以上の木を寄せ合わせて造るもの。本像もこれにあてはまる。



玉眼

彫像の目をより本物らしくみせるため水晶をはめ込む技法。

寄せ木造りの彫像は、頭部も内部がくりぬかれて空洞になっている。眼の部分に穴を開け、内側から、目よりやや大き目の薄く磨いた水晶をあてる。裏から水晶に直接、瞳や目尻・目頭のくま、あるいは毛細血管を描き、綿または紙をあてて白眼を表す。最後にこれを木片で押さえて竹釘で留めて完成。

この技法を使った現存最古の仏像は、仁平元年(1151年)



奈良長岳寺の阿弥陀三尊像である。瞳に水晶をはめる技法はエジプトにもあり、ギリシャ彫刻などでもエマイユを使っている例や、中国では、宝玉やガラス珠を入れた作品がある。

黒目を黒石で表した奈良時代の東大寺戒壇院の四天王像もこうした例に含まれよう。しかし、玉眼のように、目全体を実際の目のように表す技法は、他のどの国にも見出せず、日本独自の技法である。

運慶は仏像の種類によって瞳の色や大きさを微妙に変え、それぞれの個性にあわせた見事な演出を行った。

子持石(笹野礫岩)

礫岩とは、地層の中にある小石と小石の隙間が砂や砂泥で埋められ、長い年月をかけて一つの岩となった堆積岩の一種であり、その見た目から「あんこ石」「子持石」となどと呼ばれている。

笹野地区の山には、この礫岩が露出している場所があり、昭和22年10月、当時の旧上分村の朝比奈利喜村長がこれを県下に発表したのち、昭和25年頃、この地を調査した高知大学文理学部の甲藤次郎教授により「笹野礫岩」と名付けられた。(須崎史談会発行「おもかげ」より)

なお「子持石」と呼ばれることから、この岩に祈願すると子宝に恵まれるといった話もあり、安産祈願する人もいる。

地元での祭事 (春のまつり・夏のまつり)

毎年、旧暦で3月20日と7月20日に笹野地区上・中・下(かみ・なか・しも)の3ブロックから1人が順番で当番(世話役)にあたり、煮しめや五目寿司などを作り、当日は朝早くから他の笹野の人たちと共にお堂の内外を掃除し、仏さまやお大師さまにお供えをした後、お堂の前にゴザを敷き、皆でお供え物をいただくという祭事である。

また、夏の宵祭りでは、初盆で使った灯籠をお堂の前に置く慣習がある。



発行 笹野大日会

〒785-0028:高知県須崎市上分丙344-2(上分公民館内)

TEL0889-46-0161